地域調査報告　19　59-66　1997

進学行動に関する地理学的研究
――福島市を事例として――

草原　輝

キーワード：進学行動，県立高等学校，大学，広域化，福島市

Ⅰ　はじめに

教育は，人間の生存にとって欠くことのできないものになっている。マイヤーほか（1982）[1]は，基礎人間存在諸機能として「教育を受ける」をあげ，人間社会における教育の重要性を指摘している[2]。

教育に関する地理学的研究は，研究対象地域が大きく，公表統計の分析を行っている場合が多かった。研究対象地域が小さい研究としては，長野県佐久地方を対象とした川田（1993）[3]や福島県いわき市を対象とした志賀（1995）[4]があるのみである。

本稿は，福島市にある高等学校卒業者の大学進学先の変化を明らかにすることを目的とする。大学への進学を取り上げる理由は，高等学校への進学とは異なり，通学区域が固定されていないため，進学先の変化がより顕著に現れることによる。

以下本稿では，第Ⅱ章で福島県における高等学校について，第Ⅲ章で福島市における公立高等学校卒業者の進学先を，事例学校について述べることにする。

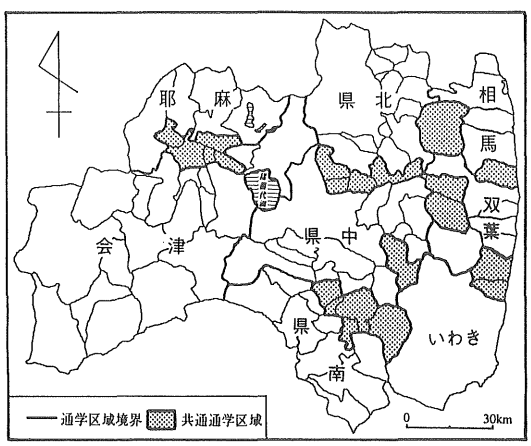
Ⅱ　高等学校の通学区域と学科設置

Ⅱ－1　高等学校の通学区域

第二次世界大戦後の昭和23年（1948年），教育基本法，学校教育法が施行され，新制の高等学校が発足した。GHQは民主主義教育の実現の三つの原則として「小学区制」「男女共学制」「総合制」を掲げた。

福島県における「男女共学制」は，同一市町村内に高等学校が一校のみの場合，多くの学校が共学制を採用した。高等学校が二校以上ある場合，男女別学の高等学校が設けられることが多かった。これは，GHQの政策が強くなく，また，当時の県民の意向が反映した結果である[5]。現在でも，いわゆる進学校において男女別学が存在する。

高等学校の通学区域（以下学区とする）制は，昭和25年（1950年）度入学生から施行された。当時，学区の規模は郡単位であり，普通科は全県を細分したが，職業科，定時制は全県を一学区としていた[6]。普通科の学区は施行当時21であったが，市町村合併，高等学校の新設や独立が行われ，現在では第1図に示すように，県北，県中，県南，



第1図　福島県公立高等学校の通学区域（1996年）
（「福島県公立高等学校の通学区域に関する規則」より作成）.

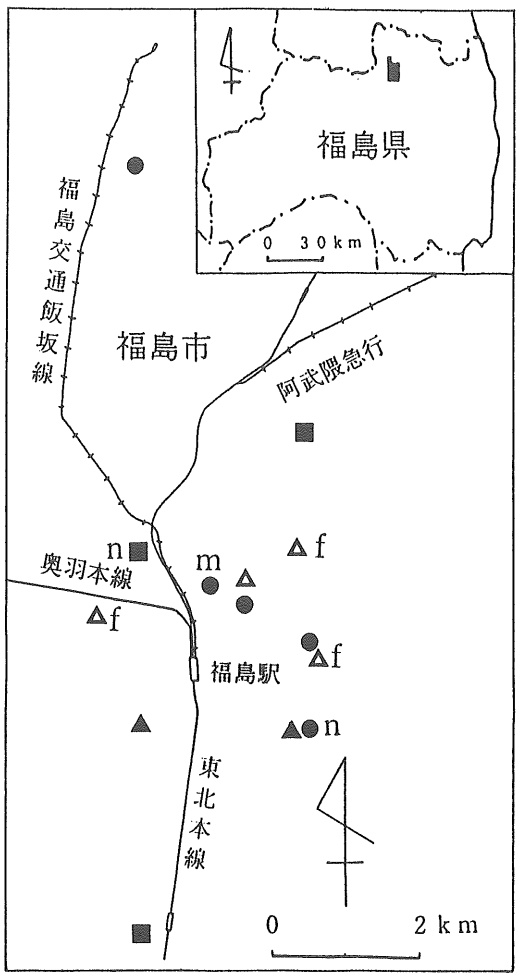
耶麻，会津，相馬，双葉，いわきの８学区となっている。一部に共通学区をおき，また，隣接学区からの入学許可制限は，耶麻，相馬，いわき学区においては募集定員の８％以内，他の学区は３％以内となっている[7)]。

Ⅱ－２　学科設置

第２図に福島市における高等学校の分布を示した。1996年７月現在，福島市には県立高等学校が10校，私立高等学校が４校存在し，定時制県立高等学校２校（うち全日制に併設１校）以外は全日制である。学科設置による内訳は，県立高等学校では，普通科のみ設置校が５校[8)]，普通科・専門科併設校が２校，専門科のみ設置校が３校となっている[9)]。一方，私立高校学校は４校とも，普通科・専門科併設校である。

生徒数は，県立高等学校普通科等6,595名，専門科3,434名，私立高等学校普通科3,002名，専門科1,638名であり，福島市の高等学校に通学する生徒の約65％が普通科在籍者である[10)]。

立地の特徴として，県立高等学校の場合，図中最北部に位置する高等学校を除くと，普通科設置校が市の中心部に存在し，普通科・専門科併設校，専門科校はそれよりも外縁部に立地する傾向をみることができる。



● 普通科校
△▲ 普通科・専門科併設校
■ 専門科校
白抜きは私立校を表す．
f：女子校　　m：男子校
n：定時制校（併設含む）

第２図　福島市における学科設置別高等学校（1996年）
（「福島県立高等学校学則」，『平成７年度 私立学校名簿』，『平成八年 福島県高等学校名鑑』より作成）．

Ⅲ　福島市における県立高等学校卒業生の大学進学先

本章では，福島市に立地する県立高等学校卒業生の大学進学先[11)]を普通科のみの設置校において検討する。また，各高等学校の比較年次を統一するため，進学先の特定が可能であった1985年以降，５年ごとに記述することにした。

Ⅲ－１　A高等学校

信夫山の南西に位置するA高等学校は，1898年（明治31年）創立で，旧制中学校を前身とする全日制普通科の男子校である。福島県における男子進学校は，郡山市，会津若松市，いわき市に存在するが，A高等学校は県内でも１，２を争う進学校である。

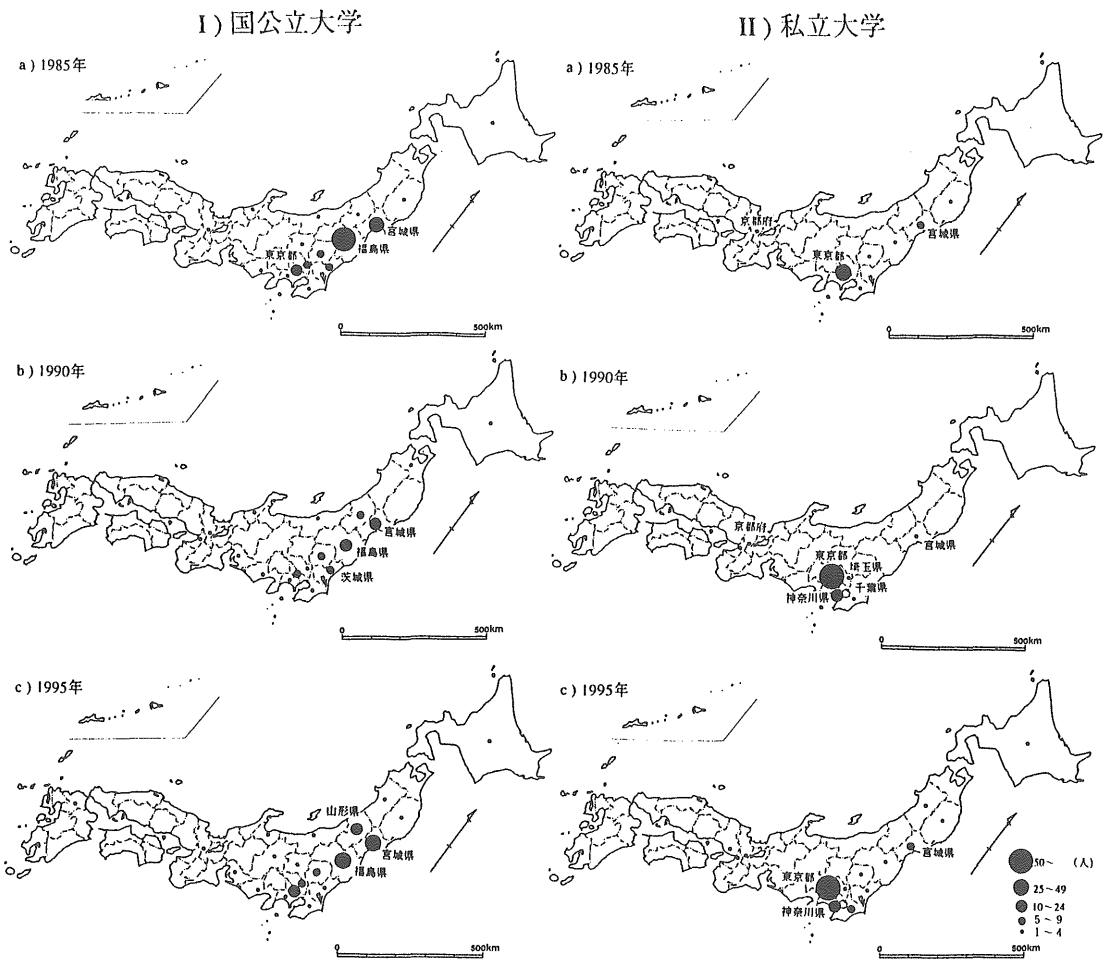
第３図にA高等学校の大学進学先を示した。1985年における国公立大学進学者は，北海道から

京都府まで17都道府県に分布している。また，進学者は福島県に隣接する諸県と静岡県までの太平洋沿岸都県に顕著であることがわかる。

卒業者444人中進学者は140人で，進学者が最も多く進学したのは福島県の57人（41％）であった。第２位は宮城県の35人（25％），第３位は東京都の10人（７％）となった。地元の大学に進学する傾向をみることができる。

1990年では，1985年と同様に，進学者は北海道から京都府までの太平洋沿岸都県に分布している。卒業者470人中進学者は87人となり，85年と比較して約４割減少した。進学者が最も多く進学したのは福島県の26人（28％）であった。以下，宮城県22人（25％），茨城県７人（８％）となり，進学者数第３位が隣接の茨城県になり，また，福島県と宮城県との進学者数の割合の差は３％にまで減少した。さらに，山形県への進学者が，85年と比べ２倍の６人となったことから，90年では進学先が，福島県の近隣諸県に分散したといえる。

95年になると，進学者は北海道から福岡県まで分布するようになり進学地域が拡大している。ただし，中国・四国地方への進学者は皆無であるので，85年，90年と同様に，京都府以東の都道府県に止まっているといえよう。



第３図　福島県立Ａ高等学校卒業者の大学進学先（1985・90・95年）

（「福島県立Ａ高等学校進学資料」各年度版より作成）.

卒業者505人中進学者は152人で，進学者が最も多かったのは福島県の41人（27％），第２位は宮城県の35人（23％），第３位は山形県の16人（11％）であった。90年と比較すると，山形県への進学者は10人増加した。福島県への進学率は変化せず，宮城県への進学率がやや減少した。また，長野県や富山県への進学者がみられるようになり，進学者は徐々に西進しているようである。

これらから，国公立大学への進学者は福島県への進学から福島近隣諸県に進学する傾向がみられ，一方で，次第に西方の諸県にも進学しているといえる。

私立大学への進学者は，1985年では，茨城県を除いた青森県から東京都までの太平洋沿岸都県と京都府に分布している。全進学者50人中，東京都へ32人（64％），宮城県へ６人（12％），京都府へ４人（８％）となり，東京都に集中している。

90年では，宮城県，東京都，埼玉県，神奈川県，京都府，大阪府の６都府県に，全進学者76人が進学している。進学者が最も多いのは東京都の52人（68％）であった。続いて神奈川県の10人（13％），宮城県，埼玉県，千葉県，京都府の３人（４％）となり，関東地方へ極度に集中していた。

95年になると，進学者の存在する都道府県は14になり，岩手県から神奈川県までの太平洋沿岸都県，関西地方に拡大している。最大の進学先である東京都は，全進学者101人中，52人（52％）となり，90年と比較すると進学者に占める割合は減少している。また，北海道や秋田県へも進学者が存在していることから，進学者が東京都へ集中する傾向が弱まり福島県近隣諸県に分散するようになったといえる。

これらから，私立大学への進学者は，東京都をはじめとする関東地方への集中が弱まり，福島近隣諸県への進学が強まりつつあるといえる。

Ⅲ－２　Ｂ高等学校

Ｂ高等学校は明治30年（1897年）創立の高等女学校を前身とし，福島駅から約２㎞の信夫山南部の市街地に位置する。平成９年度に創立100周年を迎える，県内で最も歴史のある全日制普通科の女子校である。Ａ高等学校と同様に，福島県における女子進学校は，郡山市，会津若松市，いわき市に存在し，Ｂ高等学校は県内で１，２を争う進学校である。

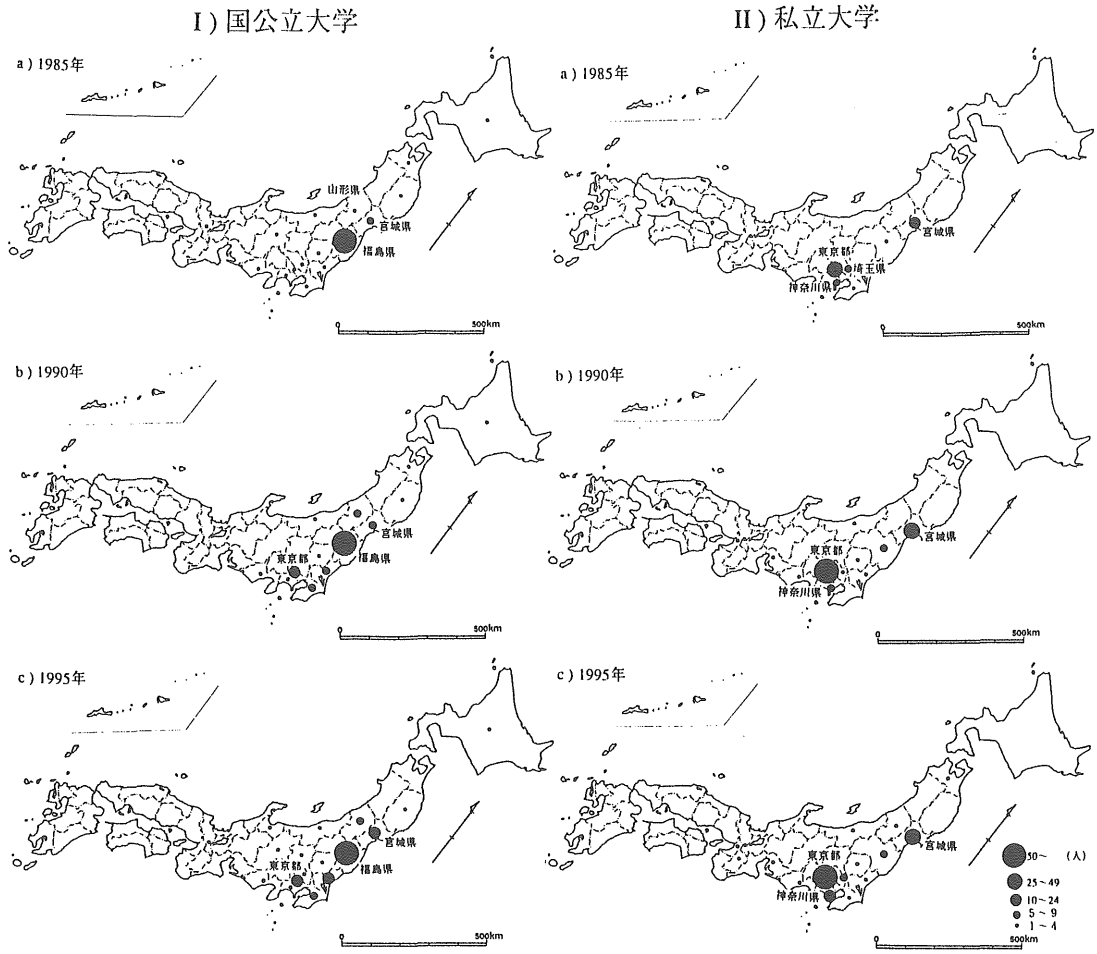
第４図にＢ高等学校の大学の進学先を示した。1985年において国公立大学進学者は，北海道から京都府まで16都道府県に分布している。進学先は京都府が最西であるが，福島県を中心とし，長野県，静岡県以東の諸県に分布を示している。

卒業者442人中進学者は96人で，進学者が最も多く進学した都道府県は福島県の64人（67％）であった。進学者の３分の２が地元の大学に進学していることになる。第２位は宮城県の８人（８％），第３位は山形県の４人（４％）であるから，非常に地元志向が強いことがうかがえる。

1990年では，進学者は北海道から静岡県まで分布し特定の都県に集中する傾向がある。卒業者473人中進学者は114人で，進学者が最も多く進学した都道府県は福島県の62人（54％）であった。以下，東京都10人（９％），宮城県８人（７％）となり，85年と比較して，福島県の大学への進学者の割合は減少し，山形県，茨城県への進学者が増加した。

95年になると，進学者が北海道から京都府まで分布するようになり進学地域は拡大している。ただし，京都府を除くと，愛知県，岐阜県以西への進学者は皆無である。卒業者498人中進学者は147人で，進学者が最も多かったのは福島県の73人（50％）で，第２位は宮城県の19人（13％），第３位は東京都の12人（８％）であった。90年と比較すると，福島県への進学者は11人増加したが，進学者の割合は４％減少した。これに対し，宮城県への進学者は11人増加し進学者の割合も６％増加した。また，長野県や富山県への進学者がみられるようになり，進学者は徐々に西進しているようである。

これらから，国公立大学への進学者は地元福島県の大学に半数以上が進学し，Ａ高等学校と比較するとこの割合は高く，女子進学者は地元志向が



第4図　福島県立B高等学校卒業者の大学進学先（1985・90・95年）
（「福島県立B高等学校上級学校進学資料」各年度版より作成）.

非常に強いことがわかる。一方で，福島県への進学者の割合は減少し続けており，近隣諸県への進学者が多くなりはじめ，また，次第に西方の諸県に進学しはじめている。

私立大学への進学者は，1985年では，宮城県，福島県と南関東，京都府に分布している。全進学者67人中，東京都へ31人（46%），宮城県へ20人（30%），埼玉県，神奈川県へ5人（8%）となっている。南関東および宮城県へ集中していることがわかる。

90年では，進学者は宮城県から愛知県までの都県と関西地方に分布し，進学地域は次第に広域化している。全進学者110人中，進学者が最も多いのは東京都で，59人（54%）であった。続いて宮城県の27人（25%），神奈川県の8人（7%）となり，85年の進学者上位3都県への進学者は増加している。

95年になると，進学者の存在する都道府県は16になり，福島県近隣諸県，宮城県から愛知県までの太平洋沿岸都県，関西地方に分布している。最大の進学先である東京都は，全進学者129人中，58人（40%）となり，90年と比較すると，その数，割合とも減少しているが依然として第1位である。一方，宮城県には37人（29%）が進学し，その数，割合とも増加している。

これらから，私立大学への進学者は，宮城県を

はじめとする福島近隣諸県へ進学しはじめ，進学地が分散する傾向がある。東京都をはじめとする関東地方への進学者の割合は減少する傾向にある。

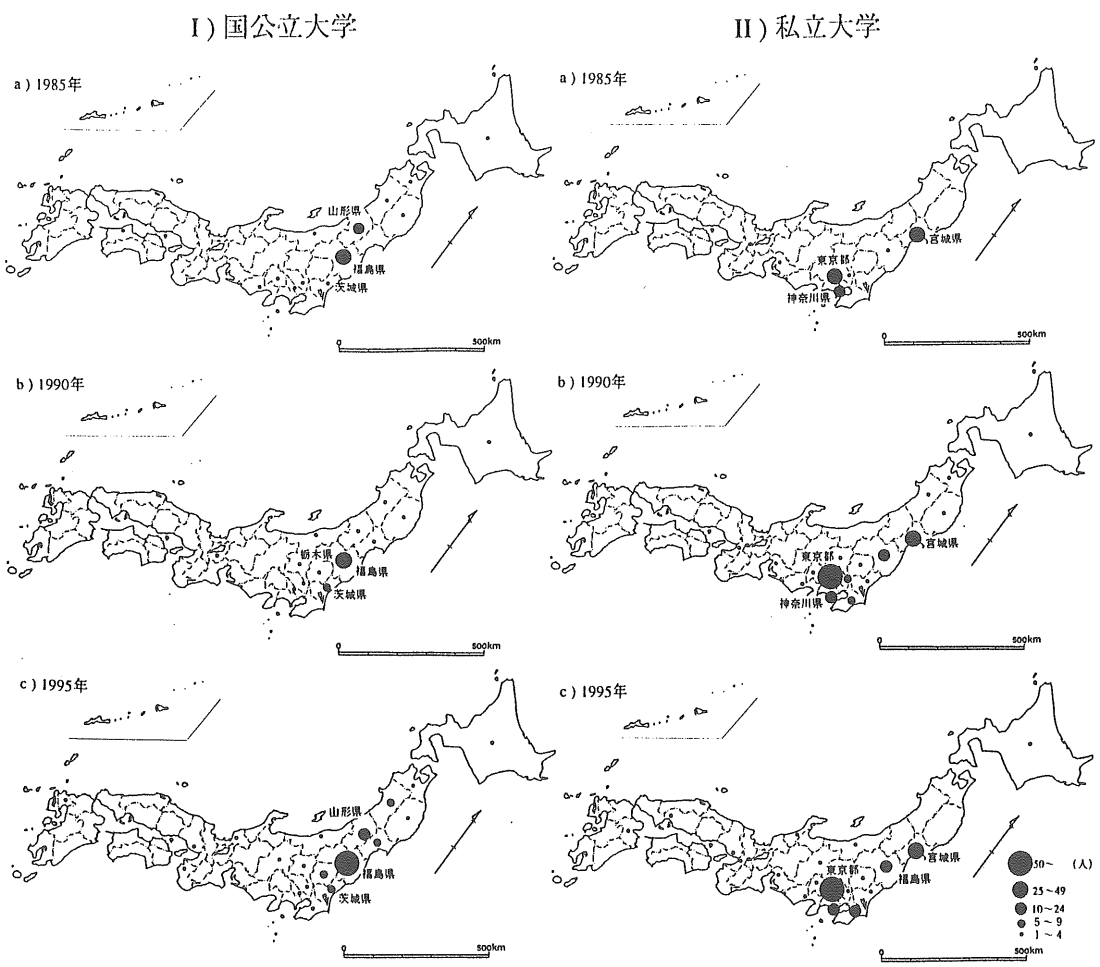
Ⅲ－3　C高等学校

C高等学校は昭和55年（1980年）に創設された新設校である。市街地東部の福島大学教育学部跡地に，県北地区第3の進学校として設置された全日制普通科校で，開校当初は男子校であったが，平成7年度から男女共学に移行した。

第5図にC高等学校の大学の進学先を示した。1985年において全国公立大学進学者は，北海道から静岡県，そして愛媛県にも分布している。

卒業者262人中進学者は66人で，福島県への進学者は最大の34人（51％）であった。半数以上が地元の大学に進学している。第2位は山形県の11人（17％），第3位は茨城県の4人（6％）である。

1990年では，進学者は青森県を除く関東以北に広く分布するが，滋賀県，長崎県にも進学している。卒業者376人中進学者は57人で，進学者が最も多く進学した都道府県は，福島県の27人（47％）であった。以下，茨城県5人（9％），栃木県4人（7％）となり，85年と比較して，福島県の大学への進学者の割合は減少した。一方，栃木県，



第5図　福島県立C高等学校卒業者の大学進学先（1985・90・95年）
（「福島県立C高等学校進学資料」各年度版より作成）.

宮城県への進学者が増加している。

95年になると，進学者は北海道から佐賀県まで分布するようになり進学地域が拡大している。ただし，中国・四国地方への進学者は存在しないため，おもに，長野県以東の都道県に進学したといえる。

卒業者409人中進学者は102人で，進学者が最も多かったのは福島県の48人（47％），第2位は山形県の12人（12％），第3位は茨城県の6人（6％）であった。90年と比較すると，福島県への進学者は21人増加したが，進学者の割合は変化せず，これに対し，東北各県や栃木県への進学者は増加した。

これらから，国公立大学への進学者は地元である福島県に集中しているが，その割合は減少し，近隣諸県への進学者が多くなりはじめている。また，次第に西方の諸県に進学しているといえる。

私立大学への進学者は，1985年では，宮城県，福島県と南関東，愛知県，京都府に分布している。全進学者79人中，東京都へ32人（41％），宮城県へ24人（30％），神奈川県へ13人（17％）となっている。南関東および宮城県へ集中していることがわかる。

90年では，北海道から愛知県までの太平洋沿岸都道県と関西地方に分布し，その範囲は拡大している。全進学者155人中，進学者が最も多いのは東京都で，59人（38％）であった。続いて宮城県の36人（27％），神奈川県の14人（9％）となり，85年の進学者上位3都県への進学者は増加しているが，その割合は減少している。

95年になると，進学者の存在する都道府県は20になり，北海道，福島県近隣諸県，宮城県から愛知県までの太平洋沿岸都県，関西地方，広島県，大分県に分布している。全進学者151人中，最大の進学先は宮城県の41人（27％）となり，東京都の36人（24％）を追い越した。また第3位が福島県の18人（12％）となり，進学者は，福島県，宮城県に集中する一方，西方への進学が増加している。

これらから，私立大学への進学者の進学地は，分散する傾向があり，福島近隣諸県への進学が強まり東京都をはじめとする関東地方への集中は弱まりつつあるといえる。

Ⅳ　おわりに

本稿では，福島市にある高等学校卒業者のうち大学進学者の進学先の変化を事例校について検討してきた。明らかになった知見は以下の通りである。

A高等学校においては，国公立大学への進学者は，次第に，福島近隣諸県に進学する傾向がみられ，一方で，西方の諸県にも進学していた。私立大学への進学者は，東京都をはじめとする関東地方への集中は弱まり，福島近隣諸県への進学が強まりつつある。

B高等学校においては，国公立大学への進学者は福島県に半数以上が進学している一方で，その割合は減少し続けている。近隣諸県への進学者が多くなりはじめ，また，次第に西方の諸県に進学してきている。A高等学校と比較すると，地元志向が強くみられた。私立大学への進学者は，宮城県をはじめとする福島近隣諸県へ進学しはじめ，関東地方への進学者の割合は減少する傾向にある。

C高等学校においても，国公立大学への進学者は地元である福島県に集中しているが，その割合は減少し，近隣諸県への進学者が多くなっていた。また，次第に西方の諸県に進学していたが，A高等学校と比較して，国公立大学進学者の福島県への進学の割合が高く，東京都への進学の割合は低くなっていた。私立大学への進学者の進学先は，福島近隣諸県への集中する傾向があり，東京都をはじめとする関東地方への進学は減少した。

全体として，国公立大学への進学では，地元である福島県への進学者の割合は減少し，北方，西方への進学者が増加していた。私立大学進学者においても，かつて進学者が多く存在した東京都への進学者の割合は減少し，福島県内や福島近隣諸県への進学者が増加していた。このことから，福

島市の県立高等学校卒業者し，大学に進学した者の進学地域は，広域化する傾向と，福島近隣諸県に集中する傾向の２つが存在していることが明らかになった。

本研究で得られた成果は，一部の学校，選択年次のデータから導き出されたものであるから，他の学校，他の年次についても検討を行う必要がある。また，進学地域の変化に関わる要因の分析も残された課題である。

現地調査および資料収集に際しましては，佐々木孝司氏をはじめとする福島県教育庁の方々，福島県教育センター，各高等学校の進路進学担当の先生方から非常に貴重な資料を提供していただきました。本稿を作成するにあたり，筑波大学地球科学系の佐々木博先生，斎藤　功先生，手塚　章先生，須山　聡先生に，終始ご指導とご助言を賜りました。記して感謝申し上げます。

[注および参考文献]

1）マイヤー, J., ペスラー, R., ルッペルト, K., シャファー, F. 共著, 石井素介, 水岡不二雄, 朝野洋一共訳(1982):『社会地理学』, 古今書院, 334p.

2）「教育を受ける」以外の基礎人間存在諸機能として,「共同社会で生活する」,「居住する」,「労働する」「供給を受ける」,「余暇活動」,「コミュニケーション」「交通に関与する」がある.

3）川田　力(1993):長野県佐久地方における大学進学行動と大学新規卒業者の就職行動. 地理学評論, **66 A**, 26-41.

4）志賀和英(1996):教育の社会地理学的研究――福島県いわき市を事例として――. 平成７年度筑波大学比較文化学類卒業論文, 47 p. 未公刊.

5）福島県教育センター編(1974):『福島県教育史 第三巻』, 福島県教育委員会, p.582, 非売品. および聞き取りによる.

6）同前掲書, p. 583. 現在でも,「専門教育を主とする学科, 普通教育, 及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科並びに分校の学科並びに定時制の学科(夜間の課程を含む.)及び通信制の課程は, 県下一円」である.「福島県の公立高等学校の通学区域に関する規則」.『福島県例規集　第十編　議会　委員会　委員』, p. 2486.

7）共通学区は, 原則として町村単位で構成されているが, 会津若松市湊町, いわき市久之浜町, 大久町, 川前町, 三和町は共通学区に含まれている. また, 共通学区からは, 隣接２学区にある高等学校のみに進学できる. ３つの学区に隣接する, 相馬郡飯舘村は, 県北, 相馬学区に, 西白河郡中島村, 矢吹町, 石川郡石川町, 浅川町, 古殿町は, 県中, 県南学区にある高等学校に進学できる. 福島県教育センター編(1974):『福島県教育史 第三巻』, 福島県教育委員会, pp. 665-667.,「福島県の公立高等学校の通学区域に関する規則」.『福島県例規集 第十編 議会 委員会 委員』, pp. 2486-2533.

8）定時制１校を含む.

9）厳密にいえば, 普通科・専門科設置校には, 普通科の名称をつけていない学科が存在するが, 聞き取りの結果から判断し分類を行った. 以上のことは, 私立高等学校の学科分類にも当てはまる. また, 専門科のみ設置校は, 農業, 工業, 商業関係の高等学校である.

10）斉藤直樹編(1996):『平成八年福島県高等学校名鑑』, 共立通信, 124p.

11）資料は, 全日制の高等学校９校について収集したが, 合格校のみ掲載されている場合があったため本稿では分析からはずした. また, 文部省大臣官房調査室統計企画課監修(1995):『1996年度版 全国学校総覧』, 原書房, 1499p. により各大学の学部所在地から都道府県別に分類した.